

宗谷地域における先端技術(OWL)の普及に向けた見学会の実施について

宗谷森林管理署 秋葉 貴

実施の背景・目的

宗谷地域は多くの人工林が利用期を迎えています。しかし人員不足から人工林の森林調査や、収穫調査を実施するための人員が不足しており、林況の把握が行き届かない現状です。



【伐期を迎えた人工林】

管内の各自治体の林務担当者には、他業務と兼任している職員や人事異動により経験不足の職員も多く、森林の見方などについて苦慮している担当者も見受けられます。

そのような状況を改善するとともに、「新しい林業」の推進に向けて宗谷地域ではあまり見る機会のない先端技術や機器を実際に体験してもらうことを目的に、経験に関係なく森林の状況を簡単に把握でき、省力化・軽労化に繋がる3次元計測システム「OWL」の現地見学会を開催しました。



実施内容



【機器説明】

現地見学会には、森林管理署職員をはじめ、宗谷管内の各自治体林務担当者、宗谷総合振興局林務課・森林室、及び留萌振興局森林室など、総勢34名が出席しました。

操作説明及び現地実測については、宗谷森林管理署浜頓別担当区1097林班で実施し、集計操作及び質疑応答を浜頓別町役場会議室において行いました。

当日は「OWLとはどのようなツールなのか」「利用方法・使用方法・操作」などについて理解してもらうため、まず、現地において当署職員による実測を見学した後、参加者にも実際に実測・集計作業を体験してもらいました。

操作自体はスムーズに実施することができ、実測後の集計作業についても点群データによる3Dにより立体的に林内の状況が確認できるため、使用した参加者からも「簡単な操作で実測ができる」「調査の結果が目に見えて分かるので分かりやすかった」などの意見が上がっていました。



【集計 意見交換】



【操作説明】



【操作体験(集計)】



【現地実測説明】



【操作体験(実測)】



【実測 意見交換】



【集計操作説明】

今後に向けて

今回の見学会では「OWL」を実際に体験してもらうことが目的であり、参加者には、「業務経験の差異なく調査の実行が簡単に実施すること」「集計結果が数字だけではなく、視覚でも点群データによる3Dにより現地の林分状況の把握ができること」などについて体験してもらうことができました。

今後は、体験してもらうことだけではなく、より現地の状況に即した実践的な機器の使用について検討し、作業の省力化・軽労化の取り組みを進めるため宗谷流域での普及を図ることで、更なる「新しい林業」の推進に向けて取り組みを進めていきます。



(OWL)



【点群データ】